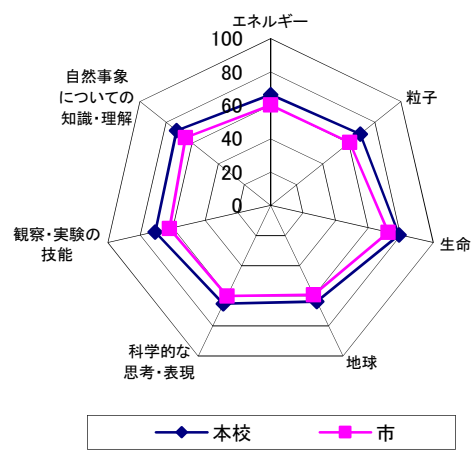


宇都宮市立豊郷中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	66.5	60.2	57.6
	粒子	68.7	60.6	55.1
	生命	78.9	72.3	63.6
	地球	63.7	59.3	50.4
観点別	科学的な思考・表現	65.2	60.2	57.3
	観察・実験の技能	70.9	62.1	57.5
	自然事象についての知識・理解	72.0	65.2	57.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○全体的に高い正答率を示し、市の平均正答率を6.3ポイント上回る結果となった。 ●「電流と磁界」という内容の問いでは、全国平均正答率より1.2ポイント低い問題もある。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・「電気分野」を苦手とする生徒が多い。基本的な学習事項の定着を図るとともに、知識を活用して科学的な思考力を養う実験や問題練習を取り入れる。
粒子	○全体的に高い正答率を示し、市の平均正答率を8.1ポイント上回る結果となった。 ●化学変化の問題の中でも、知識を活用する問題の正答率は市の平均正答率よりは高いが、他の化学変化の問題に比べて低くなっている。またイオンで考える水溶液の性質の変化の問題は、全国平均正答率より3.1ポイント低かった。	・イオンの分野では目に見えない粒子の考え方について、理解を深める必要がある。イオンのモデル図などを用いて、視覚的にとらえられるような工夫を取り入れる。また実験では、予想や考察を自分たちの言葉で表現できる授業を展開する。
生命	○全体的に高い正答率を示し、市の平均正答率を6.6ポイント上回る結果となった。 ●市の平均正答率は上回っているものの、「遺伝の規則性と遺伝子」の問題は校内では正答率が低い分野である。	・遺伝の仕組みを理解できる作業を取り入れ、遺伝子の組み合わせが代を重ねていくと変化することを体験的に理解を深められるようにする。
地球	○全体的に高い正答率を示し、市の平均正答率を4.4ポイント上回る結果となった。 ●市の平均正答率は上回っているものの、本校内では他の分野よりも正答率が低くなっている。	・知識として身につけている生徒は多いが、知識を活用することが得意でないようである。1学年「地層の重なり」で柱状図を読み取ることや、3学年「雲のでき方」をイメージし可視化することなど、思考力を育む工夫を取り入れる。